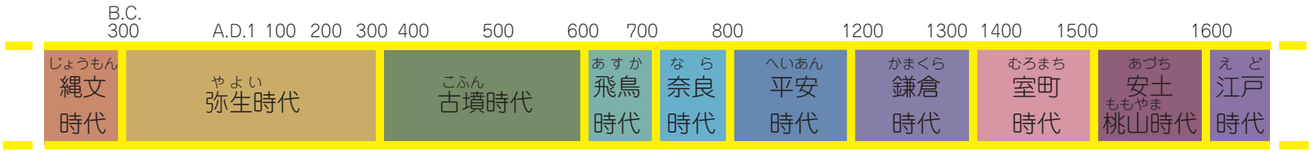
松山大学構内遺跡７次調査　調査概要

所 在 地：松山市道後樋又１番１の一部
調査面積：約 60 平方メートル
調査期間：平成 26 年 12 月 1 日(月)～同年 12 月 19 日(金)
調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター



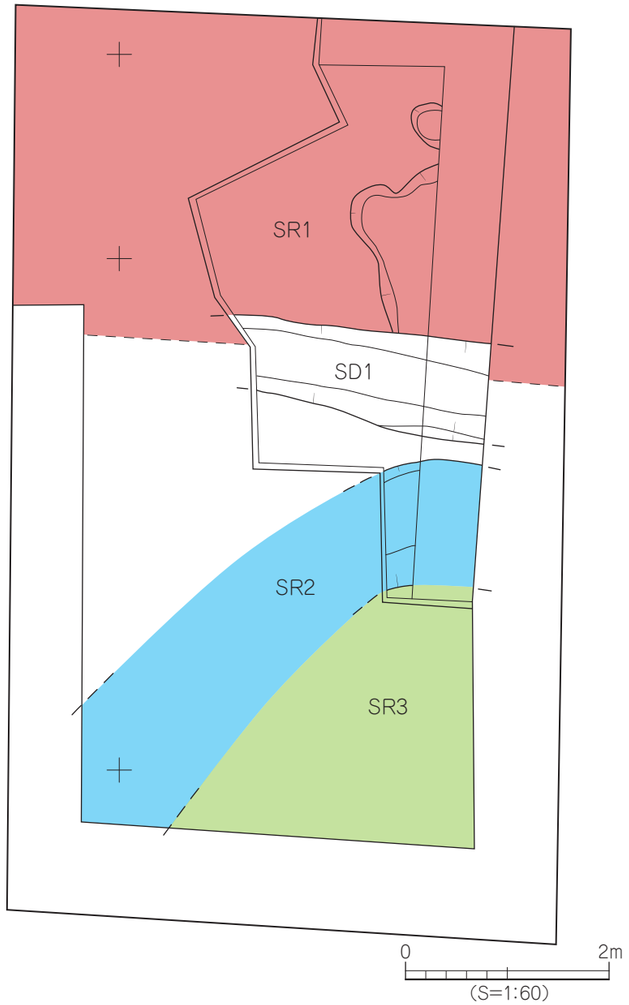


写真1　遺構検出状況(西より)

写真3　SD1検出状況(南より)

【検出遺構】

溝　　：１条（飛鳥時代）
自然流路：３条（縄文時代）

【出土遺物】

縄文土器、弥生土器
土 師 器、須 恵 器

【わかったこと】

今回の調査では飛鳥時代、7世紀前半頃の溝SD1を検出しました。そのほか、第6層堆積中に3条の自然流路（SR1～3）がみつかり、概ね、縄文時代後期から晩期に存在した遺構と考えられます。

なお、第6層中からは縄文時代後期や晩期に使用された深鉢の破片が数点出土しました。

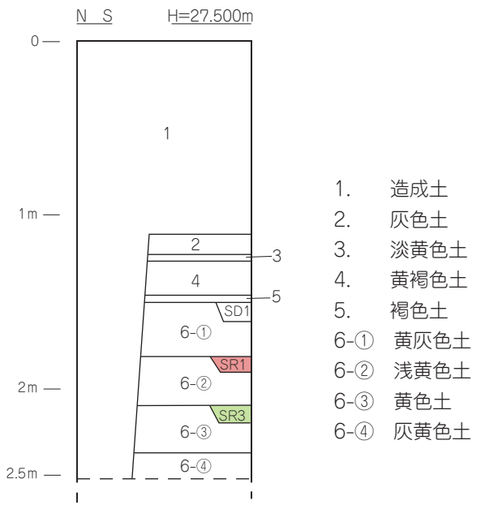


写真2　作業風景(東より)

写真4　SD1完掘状況(北より)

SD1は幅70～100cm、深さ 15cmの溝で、溝内からは飛鳥時代、7世紀前半に使用された土師器や須恵器の破片が少量出土しました。